

1995年と1996年に佐賀平野で発生したオニバスについて

上 赤 博 文*

Hirofumi Kamiaka: *Euryale ferox* Salisb. in Saga Plain,
Kyushu —1995 and 1996—

オニバス(*Euryale ferox* Salisb.)は、日本自然保護協会が1989年に発行した「我が国における保護上重要な植物種の現状」で危急種に指定され、何かと話題性の高い植物である。佐賀県においても、地元で地道に活動している「佐賀植物友の会」の機関誌「佐賀の植物」で、たびたび取り上げられている。また、1994年9月には、佐賀平野の比較的新しい大形のクリークで大群落が2ヶ所見つかり、地元の新聞で大きく取り上げられたため、一般の人々にもよく知られるようになってきている。

しかしながら、佐賀平野においてもオニバスがおかれている状況は他県と同様で、過去に記録されているが今日消滅した産地がいくつか知られている。今後も予断を許さない状況にあるので、筆者が確認した最近の発生の様子をここに記録しておきたい。

1. 小城郡小城町桜ヶ岡

小城町の桜ヶ岡に小城公園という桜の名所がある。小城公園にオニバスがあったことは、貞松(1968)が佐賀の植物3(1)に記述している。それによると、1966年までは小城公園の堀に産したが、今日では見られなくなった、としている。小城公園のオニバスについては、植物好きのいろいろな人との話の中にも話題として上がらないため、現在では発生しないのであろうと思ひ確認しないでいた。1996年10月11日に、佐賀県でも絶滅寸前のデンジソウが小城公園にあるとの情報を得ていたので確認に行った。残念ながらデンジソウは見つけられなかったが、公園の南にあるため池の脇を通ったところ、30mほど先に丸い葉が浮いているのがかすかに見え、近づいてみるとオニバスであった。80cmほどの葉を数枚つけていた。このため池は四方を完全にコンクリートで固められており、他に水生植物は何も見いだされなかった。小城公園に毎年発生しているのかどうかは分からないが、今回わずか

1株であるが健在であることを確認した。

2. 佐賀郡大和町山王

大和町山王にある山王池は、昔からオニバスが発生する池として、植物愛好家にはよく知られている。しばしば大群落を形成することがあり、かと思えばその翌年は発生しないなど、気まぐれである。貞松(1968)は、「佐賀県におけるオニバスの確実な産地は山王池だけである」とし、大群落の写真を示している。また、須古(1984)は、「1979年には山王池では最も優勢な水面植物として観察されたが、昨今ではほとんど見るができなくなっている」と記述し、1978年に撮影した群落の写真を示している。筆者も1980年代後半に数年続けて大群落を形成しているのを見ていたが、その後は発生していなかった。一昨年ため池の埋め立てが始まり、面積も4分の1ほどになって、山王池のオニバスももう見るができなくなるとあきらめていた。ところが、途中まで埋め立てが進んだ山王池に昨年突然姿を現した。その様子を貞松(1995)は写真入りで紹介している。それ以降どういふ訳か埋め立ては中断され、1996年も2株発生した。水は落とされ、ため池としての機能は失っているが、20cmほど雨水がたまり湿地化している。最後のあがきが無駄に終わらないことを願いたいものである。

3. 佐賀市城内南堀

佐賀市の中心部より少し南に下ったところに、佐賀城跡があり、その周辺に北堀、西堀、南堀と城堀が残されている。ここも、昔からオニバスが発生する堀として有名である。北堀には記録はないが、南堀は以前はそこを埋め尽くすほどのオニバスが発生していたと聞いている。貞松(1968)は、「オニバスが佐賀市内の堀割から姿を消したのはまだ新しく、昭和40年(1965年)の夏頃だったと

*〒840 佐賀市城内1-4-25 佐賀西高校

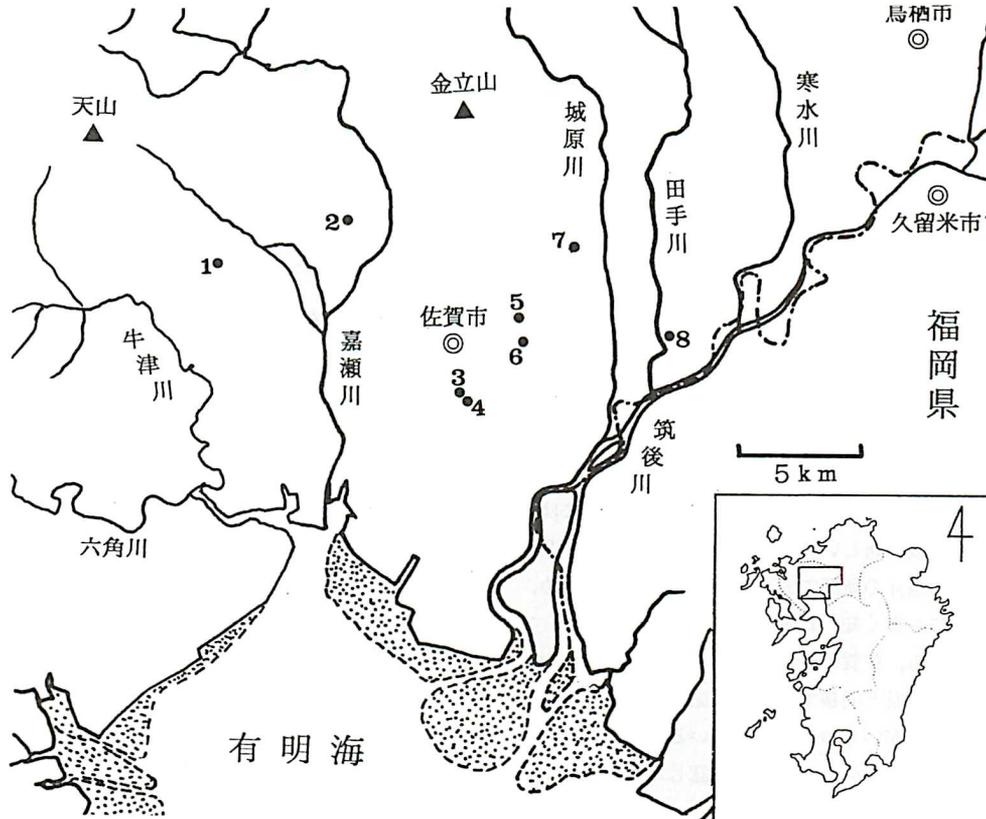


図1 佐賀平野におけるオニバスの分布地。地図上の番号は本文中の番号に一致する。

思われる」と報告しており、その頃にはすでに激減していたと考えられる。その後1969年に6株、1974年に4～5株発生した記録が残っている。河口(1982)は「1981年10月8日に55株確認し、そのほとんどが花をつけていた」、須古(1984)は「1984年10月に西堀で120枚ほどの浮葉を数えた」と報告しており、この当時は群落として回復していたものと考えられる。筆者が確認したのは、1987年、1994年、1995年で、いずれも数株の発生であった。

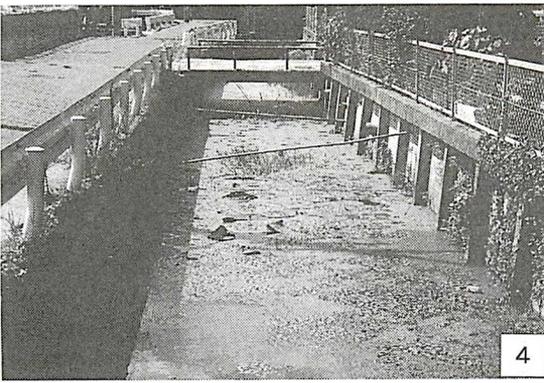
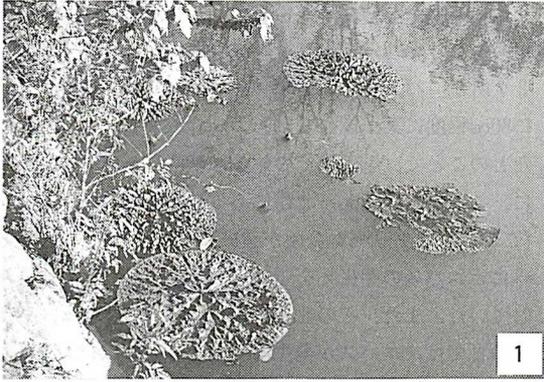
この城堀は城内公園の中にあり、周辺はすべてコンクリートで固められている。西堀と南堀の西半分は中央にハスが植えられ、岸から4m位は定期的に除草が行われ

ている。以前は、オニバスが全国的に激減している貴重な植物であるという認識がうすく、景観を悪くするやっかいな雑草としか捉えられていなかった。そのため、人為的に根絶に近い状況にまで追い込まれたと考えられる。今日では希少種としてのオニバスが認識されはじめ、除草作業の折にも配慮されているようである。しかしながら、これまでの除草と環境の悪化(ヘドロの堆積等)で発生する個体数も激減しており、何とか数個体が維持されているに過ぎない。1995年にはやっと2株が確認されただけで、1996年は発生したかどうかの確認をしていない。なお、1995年6月に、最初に出現する矢じり形をした

図2 オニバスの生育状況 (右ページ)

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 : 小城郡小城町桜ヶ岡(1996. 10. 11) | 5 : 佐賀市兵庫町(1995. 8. 9) |
| 2 : 佐賀郡大和町山王(1996. 10. 20) | 6 : 佐賀市巨勢町(1995. 8. 20) |
| 3 : 佐賀市城内南堀(1988. 9. 8) | 7 : 神埼郡神埼町横武(1995. 8. 9) |
| 4 : 佐賀市中の館町(1994. 8. 10) | 8 : 神埼郡千代田町快樂(1996. 9. 28) |

(注) 3と4の写真は最近2年以内のものではないが、3は1995年に、4は1996年に写真と同様な状況での発生を確認している。



芽生えを、南堀のいろいろな場所から49個体(推定)確認していた。その後の継続的な調査はできなかったが、8月に成長した個体を確認したら前述のとおり2株だけになっていた。このときは、また抜き取られてしまったのかと思ったが、同年に観察した他の産地(大形のクリーク)のオニバスも同様な状況があり、継続的な観察が必要と感じている。

4. 佐賀市中の館町

南堀より200mほど南へ下った街の中に、毎年オニバスが発生する水路がある。住宅街を流れる幅4mほどの小さな水路である。ここにオニバスがあることを筆者が知ったのは1994年のことであるが、県内の植物愛好家にはよく知られた場所であつたらしい。ここでは20~30株ほどが毎年発生する。この水路は南堀とつながっているために、以前南堀でオニバスが大群落をなしていた頃に種子が流れ出し、この水路に定着したものと考えられる。

筆者がこのオニバスを最初に見たときには、団地のすぐ横を流れているために、町内会の除草作業やどぶ掃除で簡単に消滅してしまうのではないかと危惧した。しかし、夏に数回観察に行ったときにはいつも健在であり、また水路の様子などから、周辺の人々にオニバスであることが認識され、保護されているように感じられた。どぶ掃除が行われるのは毎年11月になってからであり、種子がつくられたあとにヘドロが除去されて、オニバスが生育する環境が維持されている。

5. 佐賀市兵庫町

1994年は猛暑と干ばつの年であつたが、この年の9月に佐賀市の兵庫町と次に紹介する巨勢町で、オニバスの大群落が発見された。筆者もその情報を受けて現地を見に行ったが、数年前に造成されたと見られる比較的新しい、東西に伸びる大形のクリークに、幅15m、長さ80mほどの群落が形成されていた。このクリークは改修されているが、堤防は土でできている。この年は、全国的にもオニバスの発見や復活が伝えられており、水温の上昇や水圧の低下が種子の発芽を促したと考えられる。1995年は、しかしながらその面積は大幅に縮小し、3m四方程度の群落が2ヶ所できていたのみである。1996年は最盛期の夏場は調査に行かなかったが、10月19日に調べに行ったときにはその姿は認められなかった。

1996年10月19日、その大形クリークよりおよそ300m

北にある牟田という集落にすんでいる人の話を聞く機会があつた。それによると、集落の近くのクリークで今年2ヶ所オニバスが発生(いずれも数個体)したらしい。夏に80cm程度に葉が成長したあと、衰退して消えてしまったとのことで、筆者はその個体は確認していない。さらに、ここから約1500m北西にある兵庫町下淵のクリーク(ここは現在クリーク公園が造成中である)で、1996年6月にオニバスの芽生えを1株確認したが、夏までに消滅していた。また、その北500mの兵庫町東淵には、1966年頃まではオニバスが発生していたらしい(貞松, 1968)ので、この一帯は以前はオニバスの一大産地であつた可能性がある。

6. 佐賀市巨勢町

先にも述べたとおり、1994年9月に大群落が発見されたもう1つが巨勢町新村である。やはり、比較的新しい大形クリークで、南北に長い幹線クリークに兵庫町と同程度の群落を形成していた。ここは堤防がコンクリートで固められている。ここよりさらに南へ下ると、昔ながらの曲がりくねったクリークがまだ残されており、約600mほど続く。ここは土砂の堆積が進み、クリークとしての機能をもはや果たしていないようであつたが、1994年にはオニバスの小さな群落が5~6ヶ所点在していた。1995年6月には、大形クリークではかなりの個体数の芽生えが確認されたが、8月に成長していたのは100mほど離れた2つの小群落だけであつた。1996年10月に調べに行ったときには、オニバスを確認することはできなかった。

本流をなすクリークの中程から東側にやや古いクリークが伸びており、1995年8月にりっぱな群落が形成されているのを確認した。ここは堤防が土でできており、周囲の岸はキシユウスズメノヒエなどの水草におおわれている。6m×20mおよび6m×10mほどの2ヶ所に分断され、水面は70%ほどオニバスでおおわれていた。この群落は1996年10月にも、ほぼ同じ状態で確認できた。

ここから南西に300mほどのところに、牟田寄と呼ばれる集落があるが、集落の中に形成されたクリーク(30m×30m程度)に見事なオニバスの群落が形成されている。1995年8月の水草研究会佐賀集会以て観察した場所であるが、地元の人の話では以前から発生していたとのことである。1996年10月に再度確認に行った。規模はやや縮小したが健在であつた。

これらの場所は、兵庫町のクリークから直線距離で1 km程度しか離れておらず、以前は連続した分布域だった可能性が高い。

7. 神埼郡神埼町横武

神埼町横武に昔ながらのクリークと民家が再現されているクリーク公園がある。底にたまったヘドロを取り除き、できるだけ昔の形を再現してあり、1992年に開園した。この公園に1995年突如としてオニバスが出現した。前年には全く見ることができなかったが、あまり広くないこの公園に1995年は6～7ヶ所発生しているのが見られた。この近所にも、昔はオニバスがあったとの情報もある(正確な場所は分からない)が、1994年に新聞をにぎわせたその翌年であることを考えると、種子を誰かが投げ込んだ可能性も考えられる。1996年も発生を確認している。

8. 神埼郡千代田町快樂

1996年9月29日に佐賀平野のヒシ類の分布調査をしているときに見つけたものである。堆積が進んだ南北に伸びる小さなクリークに、1株だけが葉を4～5枚つけていた。地元の話では、オニバスはこの場所では始めて出現したとのことであった。この小クリークの南東側に、1976年に造成されたという大きなクリークがある。その大形クリークができたあと、しばらくはそこにオニバスが発生していたとのことで、今から12～13年くらい前から姿を見なくなったらしい。この快樂のオニバスが今後も発生するかどうかは疑問であるが、新分布地として記録しておきたい。

以上のように、1995年と1996年に筆者が確認したオニバスの産地は合計8ヶ所である。本文中にも述べたが、南堀と中の館町、兵庫町と巨勢町は大きく見ればそれぞれ1つの分布域とも捉えられるが、ここでは両者を分けて扱った。また、ここで取り上げた産地の多くは、単独個体であったり、数個体であったりして、その生育基盤が大変弱いものである。しかしながら、山王池や兵庫町、巨勢町の個体群で分かるように、ある時は消滅していても、翌年突然現れ、大群落を形成することもあることから、今後も継続的に調査・観察する価値があるものと考えられる。なお、この報文で紹介したオニバスの標本は佐賀市巨勢町(番号6)の個体だけ作製した(佐賀県立博物館に寄贈)。他は写真だけの記録である。

引用文献

- 河口 格, 1982. 佐賀城濠のオニバス. 佐賀の植物 18: 13.
- 貞松光男, 1968. 佐賀県におけるオニバスの分布. 佐賀の植物 3(3): 25—26.
- 貞松光男, 1994. 佐賀市兵庫町に出現したオニバスについて. 佐賀の植物 30: 19—20.
- 貞松光男, 1995. 山王池のオニバス再出現. 佐賀の植物 31: 28—30.
- 須古将宏, 1984. 佐賀城 お濠のオニバス再び出現. 佐賀の植物 20: 22—23.
- 我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会, 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. 320p. 日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会.